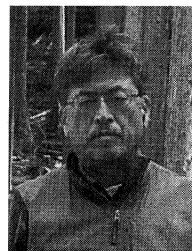


第56回農林水産祭参加 全国林業経営推奨行事

# 選ばれた林業経営

平成 29 年

公益社団法人 大日本山林会



とくてい ひ えい り かつどうほうじん そま もりがくしゃ  
**特定非営利活動法人 柚の杜学舎**

平成14年設立

代表 <sup>すず</sup> 鈴 <sup>き</sup> 木 <sup>あきら</sup> 章

岐阜県美濃市

## 1. 経営体の概況

- (1) 経営森林面積：99.71ha（経営受託）
- (2) 構 成 員：15人
- (3) 組 織 体 制：役員4人
- (4) 事 業 内 容：森林管理、森林管理に関する事業

## 2. 経営森林の概況

- (1) 機能別区分：水源涵養機能65ha，山地災害防止・土壌保全機能52ha，保健・レクリエーション機能65ha，木材生産機能58ha
- (2) 資源構成

単位：ha

区 分		I-Ⅱ 齡級	Ⅲ-Ⅳ 齡級	V-Ⅵ 齡級	Ⅶ-Ⅷ 齡級	Ⅸ-X 齡級	XI齡級 以上	計
人 工 林	育成単層林	スギ					44.96	44.96
		ヒノキ					44.15	44.15
		その他			6.67		3.93	10.60
人 工 林	育成複層林	スギ						
		ヒノキ						
		その他						
小 計					6.67		93.04	99.71
天 然 林	育成天然林							
	天然生林							
	小 計							
計					6.67		93.04	99.71

## 3. 経営目標

美濃市片知奥向山・浦山地区（通称ふくべの森）の分取契約が解除された地域の共有林を受託契約し，非皆伐施業による水源林の造成を到達目標



機械を活用した施業の様子

として森林整備を進め、次世代に引き継いでゆく。

#### 4. 経営森林の施業仕組等

- (1) 樹種：スギ、ヒノキ
- (2) 作業種：択伐高林作業（間伐）
- (3) 伐期齢：長伐期（伐期齢は特定しない）
- (4) 施業上の技術的特徴：最終目標林型としてはスギ林は260本/ha、ヒノキは500本/haを目指し、小型林内作業車と軽規格作業路（幅員2.2m）を活用した作業システムによる環境保全に配慮した森林施業の実施。

#### 5. 森林施業の実行

- (1) 施業の実施面積（最近3カ年の平均）：利用間伐4.58ha
- (2) 施業の実施方法：すべて直営
- (3) 直営実施の投入労働量（最近3カ年の平均）：自家労働力180人日、雇用労働力50人日、常用1人

#### 6. 森林施業の計画性及び共同化

- (1) 森林経営計画の作成：属地共同計画99.71ha，1団地
- (2) 計画事業量：主伐3.84ha，間伐43.92ha，植栽6.64ha
- (3) 施業の共同化：森林経営計画の協同作成及び作業道の協同利用（森林総合研究所森林整備センター，34.52ha）



所有山林

#### 7. 林業経営基盤の整備，資本装備等

- (1) 路網整備：林道（幅員5.0m）1,500m，作業路2,479m（幅員2.2m），計3,979m路網密度39.9m/ha，路網から作業現場までの到達距離50m
- (2) 林業機械・車両等（年平均利用日数）：林内作業車1台（150），バックホウ1台（100）チップパー1台（12），チェーンソー5台（180），刈払機4台（10）

#### 8. 林業生産の状況

- (1) 丸太生産（最近3カ年の平均）：145m<sup>3</sup>（柱材）
- (2) 特用林産物生産：なし

#### 9. 生産物の販売：142万円（145m<sup>3</sup>）

#### 10. 経営収支（最近3カ年の平均）

- (1) 林業経営：収入341万円（丸太販売142，補助・交付金等199），支出341万円（森林施業費），収支差0万円
- (2) 農林業その他の全経営の収支：収入491万円（林業経営341，その他150），支出345万円（林業経営240，その他105），収支差146万円

#### 11. 林業経営に係る資金の調達と運用（最近3カ年の平均）：調達341万円（事業収入142補助・交付金等199），運用341万円（事業支出）

#### 12. 経営の実行結果の記録：森林経営計画書，補助事業実施報告書，作業日





岐阜県森林文化アカデミー学生への指導

報，作業出役簿等

13. その他特記事項：保残木マーク法（島崎氏創案）を応用した非皆伐方式及び相対幹距比（ $Sr$ ）による密度管理を実施

14. 森林の管理経営の歩みと地域社会・林業への貢献等

柚の杜学舎は、森林環境の整備活動や、管理放棄による荒廃森林の再生など森林・林業が抱える諸問題を解決する事業を行うとともに、一般市民や森林所有者等に対する自然教室や、各種講習会等を通じて森林を取巻く地域社会の構築や森林環境に対する意識の向上に寄与することを目的に平成14年に設立された。これまでの主な活動は、平成14年に各務ヶ原市で発生した山火事跡地の再生事業にに参加し、企業・行政・市民との連携による県民協働「緑の再生プロジェクト」の推進団体として5ヵ年事業に関わってきた。

現在は、地域の放置人工林対策に着手し、岐阜県美濃市片知地域の分収林解除森林を集約し経営を受託した約100haの森林について森林経営計画を樹立し、スギ林260本/ha、ヒノキ500本/haをとする最終目標林型を定め、たうえで非皆伐施業（間伐）により計画的に森林整備を進めてきている。管理する森林の現況は、11齢級以上のスギ、ヒノキ人工林が主体で、小型林内作業車と軽規格作業路を組み合わせた作業システムと保残木マーク法



地元住民向けの研修の様子

を応用して環境保全に配慮した森林施業を実施してきている。

この地域では、過去に大面積皆伐等により洪水被害が発生した苦い経験があることから、上流域での水源林の造成・確保が必要であるとの地域住民の認識が高く、当法人の水源林造成への取り組みは、地域住民の森林整備への関心を高め、新たな林業グループの設立や林地残材等の高度利用への取り組みを促進している。

なお、片知川上流域は全国的にも有名なボルダリング（崖や岩を登るスポーツ）の場として知られているが、当法人により良く整備された人工林や河畔林等の森林空間は、ボルダリングの場に更なる魅力を加えている。

15. 表彰歴：

平成27年度 第53回岐阜県林業経営コンクール 団体の部最優秀賞（岐阜県知事）